

## 6 米

### (1) 国際的な米需給の概要

#### ○2009/10年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、中国、タイで増産されるものの、インド、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、ベトナムで減産することから、世界の生産量は減産が見込まれている。

需要面では、インドで減少するものの、中国、バングラデシュ、インドネシア、ミャンマー、フィリピンで消費量が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下すると見込まれる。

#### 【生産量】

生産量は、中国、タイ等で増加するものの、インド、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、ベトナムで減少が見込まれ、世界全体では前年度より12.0百万トン減少（▲2.7%）し、433.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.8百万トン上方修正されており、国別には、中国、ベトナム、タイで上方修正、フィリピンで下方修正された。

#### 【消費量】

消費量は、インドで減少が見込まれるものの、中国、バングラデシュ、インドネシア、ミャンマー、フィリピンで増加し、世界全体では前年度より1.2百万トン増加（0.3%）し、436.0百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.9百万トン下方修正されており、国別には、中国で上方修正、インドで下方修正された。

#### 【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.2百万トン増加（7.9%）し、30.5百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではベトナムで輸出量の減少が、タイ、中国、パキスタン、エジプト、米国で輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国では、イラクで輸入量の増加が、マレーシア、ナイジェリアで輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では0.8百万トン上方修正され、国別には、輸出についてインド、中国で上方修正、輸入についてEU-27で下方修正された。

#### 【期末在庫量】

期末在庫量は、中国、タイ、インドネシア、ベトナム等で積み増しされるものの、インド、フィリピン、日本で減少が見込まれ、世界全体では前年度より2.1百万トン減少（▲2.3%）し、89.5百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は20.5%まで減少する見込みである。

なお、前月からの改訂は、世界全体で3.5百万トン上方修正され、国別には、タイ、インド、ベトナムで上方修正、フィリピンで下方修正された。

表－1 世界の米需給

(単位:百万精米トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>433.4</b>	<b>445.9</b>	<b>433.9</b>	<b>1.8</b>	<b>▲ 2.7</b>
中国	129.9	134.3	137.0	1.0	2.0
インド	96.7	99.2	83.0	-	▲ 16.3
インドネシア	37.0	38.3	37.6	-	▲ 1.8
バングラデシュ	28.8	31.0	30.0	-	▲ 3.2
ベトナム	24.4	24.4	24.3	0.5	▲ 0.4
タイ	19.3	19.6	20.5	0.5	4.6
フィリピン	10.5	10.8	10.3	▲ 0.1	▲ 4.2
<b>消費量</b>	<b>428.1</b>	<b>434.8</b>	<b>436.0</b>	<b>▲ 0.9</b>	<b>0.3</b>
中国	127.5	129.3	133.3	0.8	3.1
インド	90.5	93.2	86.7	▲ 2.3	▲ 6.9
インドネシア	36.4	37.1	37.4	-	0.8
バングラデシュ	30.7	31.0	31.4	-	1.3
ベトナム	19.4	19.2	19.2	-	0.0
フィリピン	13.5	13.7	13.8	-	1.0
ミャンマー	10.2	9.6	9.8	-	2.1
<b>貿易量</b>	<b>31.1</b>	<b>28.3</b>	<b>30.5</b>	<b>0.8</b>	<b>7.9</b>
(輸出)					
タイ	10.0	8.6	10.0	-	16.3
ベトナム	4.7	5.8	5.5	-	▲ 5.2
インド	4.7	2.0	2.0	0.5	0.0
パキスタン	3.0	3.0	3.3	-	10.0
米国	3.4	3.0	3.1	0.0	3.7
中国	1.0	0.8	1.5	0.2	87.5
エジプト	0.8	0.3	0.5	-	50.0
(輸入)					
フィリピン	2.6	2.6	2.6	-	0.0
イラン	1.5	1.7	1.7	-	0.0
ナイジェリア	1.8	1.7	1.6	-	▲ 5.9
サウジアラビア	1.0	1.4	1.4	-	0.7
EU-27	1.6	1.3	1.4	▲ 0.0	2.3
イラク	1.0	1.0	1.1	-	10.0
マレーシア	0.8	1.0	0.8	-	▲ 18.6
<b>期末在庫量</b>	<b>80.4</b>	<b>91.6</b>	<b>89.5</b>	<b>3.5</b>	<b>▲ 2.3</b>
中国	37.6	42.2	44.8	-	6.1
インド	13.0	17.0	11.5	1.6	▲ 32.4
インドネシア	5.6	7.1	7.6	-	7.1
タイ	2.2	4.0	5.2	1.7	29.9
フィリピン	4.4	4.1	3.2	▲ 0.1	▲ 21.5
日本	2.6	2.7	2.6	-	▲ 2.9
ベトナム	2.0	2.0	2.1	0.5	7.7
<b>期末在庫率</b>	<b>18.8%</b>	<b>21.1%</b>	<b>20.5%</b>	<b>0.9</b>	<b>▲ 0.5</b>

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain : World Markets and Trade」、  
「PS&D」

## (2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

### ア 中国

#### 【需給状況】

中国の生産量は、単収と収穫面積が増加すると見込まれていることから、前年度より2.7百万トン増加（2.0%）し、137.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より4.0百万トン増加（3.1%）し、133.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（87.5%）し1.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（6.1%）し、0.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.6百万トン増加（6.0%）し、44.8百万トンとなり、期末在庫率も33.2%（0.8ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月予測からの改訂は、生産量が1.0百万トン、消費量が0.8百万トン、輸出量が0.2百万トン上方修正された。

#### 【生育進捗状況及び作柄】

米の収穫は概ね終了した。今年は、政府の価格支持政策等により作付け面積が増加するとともに、多くの産地で良好な天候に恵まれたため、史上最高の単収となった。

北部地域のジャポニカ米は、干ばつに見舞われたが、灌漑により被害は少なかった。

また、中部及び南部地域のインディカ米は、台風や洪水の被害も少なく豊作であった。

#### 【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。また、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

なお、中国政府は2009年度の作付けを推進させるために500万トンの備蓄を計画していたが、7月下旬から放出を開始した。12月中旬現在、概ね3割落札があり、そのうちジャポニカ米については概ね6割の落札率となっている。また、その予定数量に関しては、需給のバランスを保つため、省別に現状に合わせて決められている。

世界の生産量シェア	1位（2009/10年度31.6%）
輸出量シェア	6位（2009/10年度4.9%）

表－2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	129.9	134.3	137.0 (135.1)	1.0	2.0
消費量	127.5	129.3	133.3 (128.0)	0.8	3.1
輸出量	1.0	0.8	1.5 (1.5)	0.2	87.5
輸入量	0.3	0.3	0.4 (0.9)	-	6.1
期末在庫量	37.6	42.2	44.8 (70.3)	-	6.0
期末在庫率	29.3%	32.4%	33.2% (54.3%)	▲ 0.2	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.92	29.24	29.68 (…)	▲ 0.12	1.5
単収(もみt/ha)	6.41	6.56	6.59 (…)	0.07	0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

## イ インド

### 【需給状況】

インドの生産量は、モンスーンの降雨の時期の遅れと降水量不足、9月下旬の豪雨のため、前年度より16.2百万トン減少（▲16.3%）し、83.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より6.5百万トン減少（▲6.9%）し、86.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の2.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、米国農務省によるとここ数年わずかな量であったが、2009/10年度は、生産量の減少により0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は5.5百万トン減少（▲32.4%）し、11.5百万トンとなり、期末在庫率も13.0%（4.9ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月からの改訂は、消費量が2.3百万トン、輸入量が0.2百万トン下方修正、輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.6百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2009年6月から7月にかけて、モンスーンの降雨の時期が遅れ、降水量が不足したことが、播種と移植にかなりの悪影響を及ぼすとともに、9月下旬の豪雨が米作に被害を与えた。

現在、カリフ米の収穫が進む一方で、ラビ期の米の播種が始まっている。

インド政府によると、12月現在、カリフ米の生産量は、2008/09年度の84.5百万トンから2009/10年度には71.65百万トンに減少すると予想されている。

また、12月11日現在、ラビ期の米の作付面積は、昨年同期の0.2百万ヘクタールに対し、0.3百万ヘクタールであった。

いずれにしても、2009/10年度の米の合計生産量は、15百万トンから20百万トンの減少が見込まれている。

しかし、米の政府調達量は2008/09年度同期の12.7百万トンに対し、13.2百万トンとなっている。これは、パンジャブ州とハリヤナ州で灌漑により生産量が増加したためである。

### 【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出が禁止されており、現在も継続しているが、非公式に特定の国に一部輸出されていた。なお、種子用の非バスマティ米に限り輸出禁止が2008年9月に解除された。

また、2009年1月19日に米の輸出税を撤廃したが、その後、2009年12月7日には有機非バスマティ米について、1万トンの輸出許可がされた。

一方、輸入については、2009年10月14日に精米の輸入関税（70%）を2010年9月30日までの期限付きで撤廃した。

なお、11月9日には3万トンの入札を公示したが、応札価格が高く不成立であった。

また、11月20日の関係閣僚会議で、不足分を在庫分で補えることから、商工相は当面の米輸入の必要はないと述べた。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度19.9%）  
輸出量シェア 5位（2009/10年度 6.6%））

表ー3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値 (FAO)		前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	96.7	99.2	83.0	(85.0)	-	▲ 16.3
消 費 量	90.5	93.2	86.7	(92.8)	▲ 2.3	▲ 6.9
輸 出 量	4.7	2.0	2.0	(2.0)	0.5	0.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.2	(0.1)	▲ 0.2	…
期末在庫量	13.0	17.0	11.5	(11.5)	1.6	▲ 32.4
期末在庫率	13.7%	17.9%	13.0%	(12.1%)	2.0	▲ 4.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.77	44.00	38.50	(…)	-	▲ 12.5
単収(もみt/ha)	3.31	3.38	3.23	(…)	-	▲ 4.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

## ウ インドネシア

### 【需給状況】

インドネシアの生産量は、収穫面積と単収の減少が見込まれており、前年度より0.7百万トン減少（▲1.8%）し、37.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（0.8%）し、37.4百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度よりわずかに増加（20.0%）し、0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（7.1%）し、7.6百万トンとなり、期末在庫率も20.2%（1.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

### 【生育進捗状況及び作柄】

12月7日、ジャワの3地区で豪雨により、数千ヘクタールの水田が冠水したとの報道もあり、今後の生育状況には注視が必要。

### 【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、2008年4月11日から輸出を禁止している。

しかし、2008年の米の生産が豊作であったことを受け、政府は2009年4～6月に最大10万トンの高品質米の輸出を行うことを決定し、11社に輸出を許可した。なお、2009年7月から輸出は禁止されている。

[世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 8.7%）]

表-4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万精米トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.0	38.3	37.6 (40.2)	-	▲ 1.8
消費量	36.4	37.1	37.4 (39.5)	-	0.8
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
輸入量	0.4	0.3	0.3 (0.1)	-	20.0
期末在庫量	5.6	7.1	7.6 (4.4)	-	7.1
期末在庫率	15.4%	19.0%	20.2% (11.1%)	-	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.90	12.17	12.00 (…)	-	▲ 1.4
単収(もみt/ha)	4.82	4.88	4.86 (…)	-	▲ 0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

## エ タイ

### 【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大と単収の増加が見込まれていることから、前年度より0.9百万トン増加（4.6%）し、20.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（1.1%）し、9.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.4百万トン増加（16.3%）し、10.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.2百万トン増加（29.9%）し、5.2百万トンとなり、期末在庫率も26.6%（4.4ポイント増）まで上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、2008/09年度の実産量が0.2百万トン、輸出量が0.1百万トン上方修正、消費量が0.8百万トン下方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量が0.9百万トン上方修正されるとともに、生産量が0.5百万トン、輸入量が0.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.7百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

農業協同組合省米穀局によると、2009/10年度雨季作米については、9.2百万ヘクタールが作付けされており、生育状況は、約1.0%が播種期、4%が分けつけ期、39%が出穂期、56%が収穫済みとなっている。

なお、目標作付面積は、9.2百万ヘクタールとされており、ほぼ達成された。なお、11月から12月にかけて、北部のナコンサワン県、ピジット県等7県で0.2百万ヘクタールがトビロウンカによる虫害にあっている。

### 【貿易情報等】

2009年7月にタイとベトナムの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。

協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 4.7%）  
輸出量シェア 1位（2009/10年度 32.8%）

表－5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万精米トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	19.3	19.6	20.5 (21.1)	0.5	4.6	
消費量	9.6	9.5	9.6 (11.9)	-	1.1	
輸出量	10.0	8.6	10.0 (9.5)	-	16.3	
輸入量	0.0	0.3	0.3 (0.3)	0.3	0.0	
期末在庫量	2.2	4.0	5.2 (5.3)	1.7	29.9	
期末在庫率	11.3%	22.1%	26.6% (24.8%)	8.6	4.4	
（参考）						
収穫面積(百万ha)	10.60	10.80	10.90 (…)	0.18	0.9	
単収(もみt/ha)	2.76	2.75	2.85 (…)	0.02	3.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

## オ ベトナム

### 【需給状況】

ベトナムの生産量は、作付面積が増加するものの、単収が昨年度より減少すると見込まれることから前年度より0.1百万トン減少（▲0.4%）し24.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.3百万トン減少（▲5.2%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度並の0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.1百万トンとなり、期末在庫率も8.5%（0.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、生産量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

秋稲単期作については、全国で1.2百万ヘクタールで収穫は概ね終了した。これは、昨年同期の101%、作付面積の97%にあたる。また、北部の省では、単収が0.08トン増加し、4.84トン/ヘクタール、収穫量が5.8百万トンに上ると推計されている。

秋冬作については、メコンデルタ地方の省で収穫が概ね終了し、南部の一部の省で収穫が進められている。

春冬作については、南部の省で2009/10年度に予定されている1.7百万ヘクタールの作付面積のうち、0.5百万ヘクタールで植え付けが終了した。

### 【貿易情報等】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、2008年6月13日からこれを解除した。また、2008年8月15日からは、一定基準の輸出価格を超えた場合に輸出税が賦課されていたが、2008年12月19日に課税が停止された。

なお、2009年7月にベトナムとタイの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

（世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 5.6%）  
輸出量シェア 2位（2009/10年度18.0%）

表－6 ベトナムの米需給（市場年度：1月～翌年12月）

（単位：百万精米トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値 (FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	24.4	24.4	24.3 (26.0)	0.5	▲ 0.4
消費量	19.4	19.2	19.2 (20.7)	-	0.0
輸出量	4.7	5.8	5.5 (6.3)	-	▲ 5.2
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.5)	-	0.0
期末在庫量	2.0	2.0	2.1 (3.4)	0.5	7.7
期末在庫率	8.4%	7.8%	8.5% (12.6%)	1.9	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.41	7.32	7.33 (…)	0.04	0.1
単収(もみt/ha)	4.98	5.05	5.02 (…)	0.07	▲ 0.6

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

## カ フィリピン

### 【需給状況】

フィリピンの生産量は、収穫面積の減少とともに台風被害による単収の減少が見込まれていることから、前年度より0.5百万トン減少（▲4.2%）し、10.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（1.0%）し、13.8百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の2.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.9百万トン減少（▲21.5%）し、3.2百万トンとなり、期末在庫率も23.5%（6.7ポイント減）と低下する見込みである。なお、前月からの改訂は、9月下旬から同国を襲った台風16号、17号の冠水等の被害により生産量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

第3四半期の米の生産高は前年同期比1.5%増の3.5百万トンとなったが、第4四半期の生産量は前年の6.2百万トンより低くなる見込み。

### 【貿易情報等】

台風の影響で米の生産に被害が出たこと等から、11月始めに米輸入入札を実施し、ベトナム産を中心に0.25百万トンを輸入した。

また、12月には1.8百万トンの米輸入入札が実施され、12月1日の0.6百万トンの米輸入入札では、ベトナム産を中心に0.5百万トンの米が落札された。

（ 世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 2.4%）  
輸入量シェア 1位（2009/10年度 8.5%） ）

表-7 フィリピンの米需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.5	10.8	10.3 (10.9)	▲ 0.1	▲ 4.2
消費量	13.5	13.7	13.8 (13.5)	-	1.0
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
輸 入 量	2.6	2.6	2.6 (2.3)	-	0.0
期末在庫量	4.4	4.1	3.2 (2.5)	▲ 0.1	▲ 21.5
期末在庫率	32.7%	30.2%	23.5% (…)	▲ 0.7	▲ 6.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.35	4.53	4.45 (…)	-	▲ 1.8
単収(もみt/ha)	3.83	3.77	3.67 (…)	▲ 0.04	▲ 2.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

## キ 米国

### 【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.5百万トン増加（7.1%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の4.1百万トン（1.0%）となる見込みである。

輸出量は、0.1百万トン増加（3.7%）し、3.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（9.8%）し、0.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（41.8%）し、1.4百万トンとなり、期末在庫率も19.1%（5.3ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、輸出量がわずかに上方修正されたことにより、期末在庫量がわずかに下方修正された。

### 【生育進捗状況及び作柄】

収穫は、全州にて概ね完了した。

また、単収は、前年度より3%高く、2007/08年度に次いで史上2番目の単収となった。

〔世界の輸出货量シェア 4位（2009/10年度10.2%）〕

表－8 米国の米需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.3	6.5	7.0 (7.0)	-	7.1
消費量	4.1	4.1	4.1 (4.2)	-	1.0
輸 出 量	3.4	3.0	3.1 (3.1)	0.0	3.7
輸 入 量	0.8	0.6	0.7 (0.7)	-	9.8
期末在庫量	0.9	1.0	1.4 (1.4)	▲ 0.0	41.8
期末在庫率	12.7%	13.7%	19.1% (19.2%)	▲ 0.5	5.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.11	1.20	1.26 (…)	-	5.0
単収(もみt/ha)	8.09	7.68	7.89 (…)	-	2.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」  
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

### ○ 米国の米の生育進捗状況（11月8日現在）

#### 〔生育進捗状況〕

収穫率 96% （平年差：▲ 2p 前年差：▲ 3p）

資料：USDA 「Crop Progress」

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。